

2011年8月29日

桑名市議会議員  
愛敬

桑名広域清掃事業組合議会  
第2回定例会

平成22年度に当組合に搬入されたごみは、全体で4万9,791トン、平成21年度と比較すると、量で54トン、率で0.1%の増加となった。平成18年度をピークとして、毎年度減少傾向を示していましたが、平成22年度は微弱ながら増加となった。

(東日本大震災以降のRDFの考え方について)

一方、RDF発電事業に関することですが、再生可能エネルギー特別措置法案に関連して、現行RPS制度が廃止される予定となっています。

このRPS制度とは、再生可能エネルギー等から発電された電気の一定量以上の利用を電気事業者に義務付けるもので、平成15年に施行されています。

三重県のRDF発電事業もこの対象となっており、通常の価格より高い価格で中部電力へ電気を売却しています。

この制度が廃止されますと、既存施設への影響も大きいことから経過措置が講じられることになっています。

しかし、その措置内容も不透明で、RDF発電事業運営への影響も懸念されることから、資源エネルギー庁に対し、6月29日、県と共に要望活動を実施しているところです。

要望先の資源エネルギー庁の担当課長の話によると、確定ではないですが、既存施設への影響も考慮して、現状より悪くならない方向で考えているとのことだったようです。

いずれにしても、将来の国のエネルギー政策に関することですので、今後、国の動向も注視していきたいとありました。

(議案第6号)平成22年度桑名広域清掃事業組合一般会計歳入歳出決算につきましては、事務局より詳細な説明があり、賛成多数により可決されました。

以上